

第2回 2025年大阪・関西万博 成果検証委員会
議事要旨

日時：令和8年2月27日（金）10:30～12:30

場所：経済産業省本館12階特別会議室及びオンライン

<議事次第>

1. 第1回委員会の議論を踏まえた事務局報告
2. 大阪・関西万博のレガシー展開（案）に関する討議

<配布資料>

- 資料1 議事次第
資料2-1 第1回委員会の議論概要（大阪・関西万博の成果）
資料2-2 第1回委員会の議論概要（大阪・関西万博のレガシー展開）
資料3 大阪・関西万博プロデューサーからのご意見
資料4 大阪・関西万博のレガシー展開（案）

<参考資料>

- 参考1 2025年大阪・関西万博アクションプランフォローアップのポイント
（内閣官房国際博覧会推進本部事務局）
参考2 地方創生から見た万博の成果とレガシー（万博交流イニシアチブフォローアップ）
（内閣官房国際博覧会推進本部事務局）
参考3 大阪・関西万博を契機とした閉幕後の取組事例（経済産業省）
参考4 大阪・関西における万博レガシーの展開について
（関西経済連合会、大阪商工会議所、大阪府・大阪市）
参考5 大阪・関西万博を契機とした「未来社会」の実現に向けて
（大阪版万博アクションプラン振り返り）【概要版】（大阪府・大阪市）
参考6 夢洲における万博レガシーの継承と発信について（大阪府・大阪市）
参考7 万博における大阪商工会議所の取り組み成果とレガシー展開案（大阪商工会議所）
参考8 万博レガシー委員会提言【概要版】（関西経済同友会）
参考9 パビリオン等の会場外での活用について（博覧会協会）

<議事概要>

○本日はご多忙の折、成果検証委員会にお集まりいただき感謝。前回の委員会では、大阪・関西万博の成果について忌憚のない議論を交わしていただいた。万博の熱は冷めやらず、かけがえのない記憶を残そうという大きな流れが続いている。本日は前回の議論に加えて、いかにレガシーとして次世代に継承していくかを中心に議論いただきたい。様々な立場からのご意見が重要であり、幅広くご意見をいただきたい。自分の子どもを連れて万博へ訪れた際には、石黒館で子どもが涙を流しており、自分の子どもに限らず、その時の気持ちが将来どう育っていくのかといった面もある。何かしらずっとつながり続けられる、触れられるレガシーにしたい。また、会場内で一生懸命に勤務されていたボランティアスタッフの姿も拝見した。想いを持って活動いただいていたボランティアスタッフも日本の成長において必要な人材であり、レガシーでもあると考えている。本日も活発な議論をお願いしたい。【越智政務官冒頭挨拶】

資料1、資料2-1、資料2-2、資料3及び資料4を事務局より説明をした上で討議を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。（順不同）

○日本政府館名誉館長として、開幕前から夢洲に何度も足を運び、国内外の賓客を迎え、日本の魅力を発信する役割を努めてきた。万博では、世代や国境を超えた「つながり」が各所で生まれ、

多様な催しを通じて多くの人々が世界と交流するかけがえのない機会となった。特に東ティモールのナショナルデーでは、大統領らと再会し、これまでの交流が未来へ確かに続いていることを実感した。また、万博は企画や運営に関わった様々な国の方々や来場者が新たな気づきを得て、新しい技術や価値の実現に挑戦する姿を生み出した場でもある。こうしたヒューマンパワーは大きなレガシーの一つであると考えている。万博で各々が築いてきた信頼関係を一過性のものにせず、立場や世代を超えて学び続け、次世代へとつなげていく視点が必要。日本館では、古くから受け継がれてきた「循環」を生み出す日本独自のものづくりの思想を示し、それが最先端技術と結びつき進化し続けている姿を提示した。この理念は若い世代に自国への自信をもたらした。日本のものづくりの根底にある「考え方」そのものに価値があると伝えることができたのであり、この思想の提示と共有こそが日本館の本質的な理念であった。この理念や思想は、教育の場での活用・発信により未来へ引き継ぐ道筋になり得ると感じており、日本館レガシーブックや日本館レガシープロジェクトなど、すでに次世代への継承も始まっている。万博は閉幕したが、ここから新たな始まりである。理念を教育や人材育成の現場で生かし、未来への行動につながる“仕組み”として残していくこと、万博から生まれたメッセージが一人一人の未来に向けたアクションにつながっていくことこそ、真のレガシーであるとする。【藤原委員】

○今回の万博で明らかになったことは、夢洲が新たな交通の要衝の地であること。京都、滋賀、瀬戸内を構成する各県と水を通して、空を通じてつながる、そういった新たな拠点として活用していく考えが必要なのではないか。また「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマに表れているように、デザインがいかに未来でどんなに大きな影響をもたらすか。万博で活躍した若い人材が、万博で習得した技能をさらに高度に洗練させ、様々な文化、イベント、芸術等に活躍できるような学びの場を夢洲に設けてはどうかと思う。そのためには、夢洲の場で文化イベントを継続的に催していく必要がある。これからのビジネスはものづくりだけではなく、人の集まりをどう作るか。夢洲の場で継続的な人の集まりをマネジメントし、世界に発信していくことのできる人材作りをする。世界の動向に並行してうまくデザインしていくことができれば、日本はかなり大きな力を世界に発信できると思う。【山極委員】

○資料4に記載されている事項の中で重要だと思う点が二点。一点目は、海外若手研究者や専門人材との知的交流の促進について。万博の実施に関して最も重要視したのは、一人でも多くの学生、若手職員・教員が万博に参画することこそが真に意味のあるレガシーになるだろうという点。その観点から、次世代を担う多くの若手が参画し、主体的に関わることで様々な枠組みを超えて出会い、未来社会を構想する機会を支援していくことは、万博の理念を真に具現化する上で極めて意味深く効果的な投資になる。二点目は記念公園での文化芸術イベントについて。万博のレガシーを社会に根付かせていくためにはその理念を想起させるイベントの継続開催が不可欠。記念公園を中心に文化・芸術・科学・技術の融合イベントを毎年開催し、国際的なフェスティバルに育てていくことは、レガシーを未来に接続するために大きな意味を持つもの。けいはんな万博2025、中之島パビリオンフェスティバル2025を実施した中で、産学官民の垣根を越えた連携が生まれ、この共創の経験そのものが地域に刻まれたかけがえのないレガシーであると感じている。記念公園でのイベント、さらには各地での自主的な取組に対して剰余金を活用した支援を行うことが、レガシーの継承と発展に大きなインセンティブになる。【西尾委員】

○今月上旬に関西財界セミナーを開催。持続可能な未来社会の実現に向けて、万博の理念を継承し、その成果を関西、日本の成長につなげていくため、具体的な行動に移していくことを経済界の総意として確認したところ。地元経済界の立場から三点コメントしたい。一点目はつながりの活用。最先端技術等の実装化・産業化は非常に重要なテーマ。今後は具体的に社会実装していく時間軸や支援内容について検討を深めるとともに、大阪府・市等とともに中長期的なプロジェクトを推進する仕組みを検討しているところ。国による成長戦略17分野等の政策パッケージと連携した枠組みとなることを期待している。広域観光促進についても、海外における関西の認知度や訪問意向度の高まりを好機と捉えて、関西一円の広域観光を高みに引き上げることが重要。二点目は

創造活動の深化・展開。先日、GSE (Global Startup EXP0) 2026 の大阪開催が決定したように、万博のレガシーとなる国際イベントをオール関西で取り組んでいきたい。三点目は万博剰余金の扱いについて、今回整理された基本方針をベースに配分することに異論はない。剰余金を配分し、速やかに結果を出していくべき。限られた剰余金をどう使用するかはよく注意して議論する必要があり、今年度末には大阪で会議体を設置し、オール関西で万博のレガシーを展開する体制を構築したい。将来的にはこの会議の運営団体を法人化した上で万博の剰余金をまとめて継承し、大阪・関西におけるレガシー事業の財源として活用したい。【松本会長】

○夢洲の「場の記憶」に関して二点お伝えしたい。一点目は大屋根リングの 200m 残置が決定したことも受けて、跡地開発において大屋根リングに象徴される場の記憶をしっかりと継承していくことが大事。跡地開発は今後、夢洲第 2 期において、マスタープランが策定され、それを開発のベースとして事業者の公募を今後行っていくと承知しているため、万博の場の記憶を継承するような計画とすることをマスタープランにしっかりと明記することが大事。当然、どのように開発に活かし、展開していくのかは事業者の提案次第であることは理解。跡地開発は、夢洲 2 期と 3 期などに分かれているが、大屋根リングは 3 期区域にあったウォータープラザにオーバーラップして建っていたことから、2 期と 3 期というエリアを越えて、全体像として跡地開発のビジョンを事業者提案してもらうことも可能にするか、その方向で議論していくことなどをマスタープランに明記してほしいと考えている。二点目は静けさの森共鳴機構の立ち上げ。静けさの森が残置されることを受けて、森を含めた環境およびそれにまつわる生態系保全、次世代教育、文化、芸術、国際連携と言った幅広い活動の受け皿になるような団体を設立した。どのような形で関わっていくかはこれからの議論になるが、何らかの形で活用してもらえるとありがたい。営利目的ではないので、万博レガシーに貢献できるよう尽力したい。【藤本委員】

○レガシー展開の基本方針の大きな方向性に賛同。それぞれの柱について、重要と考えるポイントを申し上げたい。第一の柱である万博で作られたつながりの活用については二点。一点目は最先端技術等の実装化、産業化について。新技術の社会実装というのは、基本的には民間で取り組んでいくものであるが、その普及にあたって政策的なサポートは重要。大阪・関西で強みを持つ分野については、強力な支援体制が構築されることを頼もしく思う。それ以外の分野についても、民間の取り組みを政策的に支援していただけると推進力が高まると思う。二点目は、海外若手研究者や専門人材との知的交流の促進について。日本の魅力をより一層海外に発信し、海外から共感してもらうためには、グローバルなビジネス領域での活躍を目指す日本の学生への留学生支援や、日本研究に従事する海外の若手研究者の国際交流の促進は大変有用。第二の柱である万博を契機とした創造活動の進化展開については、ソフトレガシーを継承していく観点から、各種創造活動をアップデートしながら継続していくという方針に強く賛同。特に未来をつくっていく将来世代に向けて、万博の理念やメッセージをしっかりと届けることが極めて大切であり、様々な媒体を通じて効果的に周知することが重要。第三の柱である夢洲の場の記憶の継承・展開について、ソフトレガシーとともに大屋根リングや記念館などのハードレガシーをしっかりと残し、継承していくことも重要。夢洲に行けばまたあの万博の感動が蘇るという場所をぜひ残していただきたいし、万博に足を運べなかった人にとっても、当時の熱気が感じられるような場所になることを大いに期待している。【國部委員長】

○万博に行くと言った前向きな気持ちになれた一番の理由は人と人のつながりであり、その場には共生が生まれていた。一人一人の心に残っているものがレガシーそのもの。具体的に今後どうつなげていくかを考えると、大事なものは場所。発信拠点が重要。大屋根リングは 200m 残置することになり、これは心に残るものがさらにつながっていく拠点になると思う。記念館も静けさの森も発信拠点になる。緑地公園を整備し、イベントなどもできるようにしていく。剰余金を考えるときにはこういった部分は重要。また、万博で見た新技術が社会実装されるのは極めて重要なこと。最先端の技術は、背景にある思想も大事。技術はあくまでも手段であり、その背景にある思想を具現化していくことを後押ししていくべき。その仕組みも重要であり、トップマネジメント会議を

作って実装化するセンターをきちんと作って後押ししていく体制が重要。剰余金をどう使うかの観点では、大屋根リングの一部残置、会場跡地でレガシーを発信する取組、最先端技術の実装化を後押しする仕組み、国際的なイベントや会議の継続開催が重要である。実施体制も大事なので、オール関西で作りに上げているところだが、現実に関西に動かしていく拠点が大事。参考資料5は、万博を契機とした「未来社会」の実現に向けて、必要な取組を大阪府市で取りまとめ、万博後に振り返りを行ったものなので、参照いただきたい。【吉村知事】

○場の提供に関わるところで、ソフトレガシーと合わせていかに展開していくかが重要。大阪市では新たな姉妹都市やMOUの締結といった海外とのネットワークを強化し、万博でも実施した国際的なイベントを大阪で開催することで、万博のチャンスを逃すことなく、大阪・関西の強みや魅力を活かした取組をしてきた。万博の成果を一過性のものとしないうちに、今後剰余金も活用しながら、大阪・関西で連携を進めていくことが必要。例えば、経済界やJETRO等の各種支援機関における取組との連携を図りつつ、大阪市においても企業の海外展開支援を図りたい。また、夢洲をレガシー継承・発信の「場」と位置づけ、夢洲全体で万博の記録や成果を日本・世界に発信する機能の導入をすべく官民一体となって進めていきたい。夢洲2期区域においては、万博の成果を継承し、音楽、アート、先進技術といった多様な取組の展開と交流の促進を図るとともに、国内外への情報発信に取り組みたい。大阪府・市が中心となり、記念館や公園を整備し、周辺の民間開発エリアと合わせて万博のわくわく感を再現することで、万博のレガシーを日本、世界に発信する拠点としたい。また、大屋根リング残置のための改修や管理運営等に加え、記念館の管理運営に剰余金の活用を想定。記念公園では文化交流や音楽イベントの開催、記念館ではスタートアップのピッチイベントなどを通じて交流の場を創出していきたい。なお、大屋根リングの部材確認の結果、当面の間、活用可能である見込み。【横山市長】

○万博の準備・運営主体として直接関わってきた立場から強調したい点として、今回の大阪・関西万博の様々な準備・運営にあたって蓄積された知識、経験、ノウハウなどが一つにまとまった主体にしっかりと受け継がれていくことが非常に重要。戦後には10回の登録博が実施されているが、そのうち3回も実施しているのは日本しかない。正直な感覚を言えば、日本はおそらくこれから長い間、主催国として万博をすることは難しいと思っている。その中で、各国が行う万博にも日本として力を入れて参加することはすごく重要なこと。ノウハウが散逸してしまわないように、一つの機関にしっかりと集めておくことが重要である。また、これから予定されているベオグラード博、リヤド博において、日本が如何なる国であるかということ、技術だけでなく文化もこんなにも深いものを持っているということを、しっかりとショーケースすることが重要。大阪・関西万博においても、しっかりと準備をしてきた国は大変人気を得ていた。ベオグラード博、リヤド博という機会を私たちはフルに活用する必要があり、主務官庁である経済産業省が今の段階からしっかりと取り組んで、大阪・関西万博のノウハウを活用していくことが重要である。【石毛総長】

○今回の万博開催については、世界で分断が生まれている中、大阪・関西万博宣言でも触れられていたように、万博が相互理解と対話を促す重要な公共財であることを世界に示すことができ、今後の万博開催に向けて意義ある実績を残した。万博の成果として注目していたのは、万博外交による新たな海外とのネットワークの構築、次世代を担う若者たちが国内にいながらリアルな体験を通じて世界や未来を身近に感じてもらったこと、SDGs達成に向けて意識変容・行動変容が起きたこと、新たな技術やシステムの実証が進んだこと、東京一極集中が進む中で開催地である大阪・関西の存在感やブランド力が高まったこと、の五点。海外とのネットワークの面では、日本の成長戦略として重要な分野である医療や先端技術などの国際イベントを定着させ、国内外から投資や人材を呼び込むためにも、経済産業省、JETRO、NEDO、自治体などのバックアップ体制の継続も不可欠。次世代を担う若者たちが万博のリアルな体験やセレンディピティな出会いを通じて、いのちや未来社会だけでなく、グローバルな社会や多様性についても自分自身で考えてみる貴重な機会になり、今後の大きな財産になりえるもの。関西経済同友会の万博レガシー委員会が

ら、昨年11月に提言を実施した。先月2月5～6日の第64回関西財界セミナー分科会においても、万博レガシーについて活発な議論が交わされた。本会議での議論は、閉幕直後の昨年11月に関西経済同友会の万博レガシー委員会による提言でお示した「万博理念継承のための後継組織の早期立ち上げ」や「追体験の場の提供」の趣旨に沿ったものであり大変期待している。具現化されている様々な取り組みを継続し、後押しする上でも剰余金の活用方法が重要であり、国際競争力強化に向けたさらなる規制緩和や財政支援の議論も必要。【永井代表幹事】

○大阪商工会議所の万博レガシーに関し、五点申し上げる。第一に、大阪ヘルスケアパビリオンにおける成果の継承について。大阪ヘルスケアパビリオンで展示した432社の中小企業・スタートアップの技術革新を基盤に、京都・神戸の商工会議所と連携し、社会実装やサプライチェーン変革を支援する仕組みを構築する。第二に、国際交流の推進について。会期中に20の海外機関とMOUを締結。若手経営者やスタートアップ経営者の交流を継続するとともに、会期中に実施したシェイプ・ニューワールド・イニシアティブの取組みを引き続きバックアップし、国際ネットワークを強化する。第三に、スタートアップ創出支援について。会期中には、海外のスタートアップ、投資家、ベンチャーキャピタルが参加する、メドテック分野のスタートアップのグローバルピッチおよびアクセラレーション事業を共催した。今後の発展を引き続き支援する。第四に、夢洲の場の継承支援について。大屋根リングの残置や記念公園、記念館の整備について全面的に支持する。最後に、海外展開と剰余金活用について。中小企業・町工場・スタートアップにとって、今後の成長には海外展開が極めて重要であるため、JETROによる支援の一層の強化をお願いしたい。また、剰余金は特定の分野に偏らないバランスある配分が重要であり、その検証は本委員会の重要な役割である。【鳥井会頭】

○今後議論を進めるにあたり、基本的なスタンスとして二点申し上げたい。一つ目は、レガシーの捉え方について。レガシーは、主催者や参画企業、関係者がその後に行う活動のみを指すものではなく、実際には、私たちの目に見えないところで、支援の有無を問わず、多くの人々が自発的にレガシーを活かす活動を展開している。中途半端に困り込みやリスト化を進めることは、かえって広がり制限しかねない。「無限の裾野」の広がりを常に意識し、尊重する必要がある。そのうえで、公的イニシアチブとして何を打ち出すのかは、むしろ明確に絞り込むべきである。二つ目は、万博という歴史的な文脈を踏まえること。ここで議論している対象は、単発の大型イベントではなく、「万博」という170年以上続く国際的制度的流れの中に位置づけられるものである。万博は長い歴史の中で、多様な文化がせめぎ合うなかで培われた多くのルールや工夫の積み重ねの上に成り立っており、その枠組みの中だからこそ今回の成果も生まれた。レガシーを語る際には、この国際的な歴史の一部であるという視点を明確に持つ必要がある。したがって、万博理念の継承に資する「国際社会への還元」は柱の一つとして位置づけるべきである。より具体的には「今後開催される万博への継続的貢献」「将来的な開催可能性を含めた開発途上国支援」といった要素が含まれよう。また、たとえば夢洲の場の継承や記念館を検討する場合も、それが「万博史の一部である」という認識を失わないことが重要である。【佐野委員】

○提示された三つの柱には賛同したうえで、三点を提起する。第一に、国際連携・交流の重要性をより明確に位置づけるべき。正式参加国や関係者からのフィードバックを体系的に収集し、その評価を踏まえて今後のグローバルな交流や発展につなげることが重要。第二に、「場の記憶」の活かし方。リングの一部や静けさの森が残されることは大変素晴らしく、来訪者の感情や新たな発見を生む仕組みづくりを期待。また開催時の賑わいとは異なる形でのエンゲージメントの在り方を検討すべきで、遠距離・海外向けの発信も視野に入れるとオンラインの活用も考えられる。第三に、継続的な推進体制の構築。今後レガシーを展開していくうえで、熱量やモメンタムを維持する担い手・受け皿をどう整備するかが重要であり、国際連携を豊かにしつつ運営していくことが求められる。【宮地委員】

○事務局が示したレガシー展開の基本方針および三つの柱に強く賛同する。特に、スタートアップ

や文化・芸術イベントなど、万博を契機に生まれた新たな挑戦を一過性で終わらせず、継続・発展させることで大阪・関西の経済発展につながることを期待。万博が大阪・関西の更なる飛躍の契機となれば、東京一極集中の是正にもつながり、日本全体にとって大きな利益になる。さらに、2025年は国際秩序の変化、生成AIによる技術革新の加速、さらには気候変動対策において従来の「抑制中心」から「適応を含む現実的な対応」へと議論が広がりつつあることなど、大きな潮流の変化が同時に進んでおり、人類史の重要な転換点となり得る年である。こうした歴史的な節目の年と大阪・関西万博を重ね合わせ、経験と記憶を記録・継承し、未来社会をよりよくするための知恵として活かしていくことが出来れば大変意義深いことだと考える。【五神委員 ※欠席のため事務局が代読】

○レガシー展開案に二点意見を申し上げる。第一に、万博で生まれた「つながり」の継続的支援の必要性。万博を契機に中小企業やスタートアップの海外展開、企業間連携、製品化など具体的な成果が生まれている。これらを一過性で終わらせず、伴走支援やビジネスマッチング等を通じて継続的に発展させるべきである。現行案ではスタートアップや次世代モビリティの記載はあるが、中小企業支援の明示が不足しており、中小企業への伴走支援やビジネスマッチング等も対象にしていきたい。第二に、「ハード」と「ソフト」の両面を踏まえたバランスある剰余金配分。レガシー展開は「大阪・関西」と「日本全体」の二視点、三つの柱で整理されているが、剰余金は国民や経済界、未来のために活用されるべき貴重な財源であり、特定分野やハード偏重とならないよう、ソフト面も含めた均衡ある配分が重要である。【小林会頭 ※欠席のため事務局が代読】

○本日提示した案について方向性への概ねの共感が得られたと思うが、その背景にある深み、重みを改めて感じた。いただいた意見を踏まえて、剰余金の扱いを含め、時間軸や多様な視点を考慮しながら今後さらに具体化な検討を進める。参考資料の取組事例の提示は公表可能な一部に限られており、また海外・民間パビリオンに対しては成果や意義などについてヒアリングを実施しており、その内容を踏まえて案を作成しているが、情報の性質上、詳細の開示には制約がある。さらに、万博の記録・記憶を次世代へ継承する実施体制が非常に重要で、大阪・関西で準備している支援体制も踏まえつつ、国として国際社会との関係を視野に入れたレガシー展開の進め方や公的アプローチについて、皆様から話を聞いて検討し次回に向けて準備を進める。【事務局】

○万博を通じて共有・認識された価値観やビジョンは、単なる記憶にとどめるのではなく、発展・継承してこそ真のレガシーとなる。来場者は国内で国民の約4分の1、海外からは全体の約5%にとどまっており、価値観やビジョンをより広く国内外に発信し広めていく必要がある。特に、今後開催される万博の場を活用し、大阪・関西万博で築いた理念を継続的に発信していくことは我々の責務である。開催地である夢洲をレガシーの発展・継承の拠点にするべきであり、そのために新技術の実装や各種イベントの開催、場の記憶を体現する環境整備等をオール関西で官民が連携して推進していくことは非常に心強く、大いに期待している。【十倉座長】

○本日も御出席の皆様におかれては、ご多用の折お集まりいただき、闊達な議論を賜ったことに感謝申し上げます。本日は、万博の成果をレガシーとして後世に引き継いでいくための取組の方針について、ご議論いただいた。今後の基本的な方針として、①万博で創られた「つながり」の活用、②万博を契機とした創造活動の深化・展開、③夢洲の「場の記憶」の継承・展開、を大きな3つの柱として実施していくことにつき、皆様の御理解をいただけたように考えている。本日ご議論いただいた内容も踏まえ、大阪・関西万博のレガシーをいかにして残し、次世代に継承していくか、さらに具体的な議論を深めてまいりたい。引き続き、皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。【越智政務官締めくくり挨拶】

(以上)

(参考)

<出席者>

委員（五十音順・敬称略）：

十倉 雅和 2025年日本国際博覧会協会 会長 <座長>
佐野 真由子 京都大学大学院 教授
西尾 章治郎 国際高等研究所 所長
藤本 壮介 大阪・関西万博 会場デザインプロデューサー
藤原 紀香 日本館 名誉館長
宮地 純 リシュモンジャパン合同会社 カルティエ プレジデント&CEO
山極 壽一 総合地球環境学研究所 所長

関係者

吉村 洋文 大阪府知事
横山 英幸 大阪市長
松本 正義 関西経済連合会 会長
鳥井 信吾 大阪商工会議所 会頭
國部 毅 2025年日本国際博覧会協会財務委員会 委員長
石毛 博行 2025年日本国際博覧会協会 事務総長
永井 靖二 関西経済同友会 代表幹事

経済産業省

越智 俊之 経済産業大臣政務官
藤木 俊光 経済産業事務次官
武田 家明 近畿経済産業局 局長
松山 泰浩 首席国際博覧会統括調整官
奥田 修司 商務・サービスグループ博覧会推進室長

内閣官房

井上 学 国際博覧会推進本部事務局次長